

# 1. 都市行財政制度の改善について

1. 「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」(第2次一括法)の成立に伴い、基礎自治体への権限移譲が実施されることとなったが、さらに一層の権限移譲を図るとともに、権限移譲にあたっては、自治体の意見を十分反映させ、地方の担うべき事務と責任とに見合った地方税財政制度の再構築などの財源確保を図り、真の改革を強力に推進すること。
2. 国の「財政運営戦略」における地方の一般財源総額の確保に基づき、総額確保の確実な実行を図るとともに、地方税・地方交付税について次の措置を講じること。
  - (1) 国と地方の役割分担に応じた地方税源の充実確保を図るため、税源の偏在性が少ない地方消費税を基本に、国から地方へのさらなる税源移譲を行い、地方一般財源の充実確保を図ること。
  - (2) 地方財政計画の適正化を図ったうえで、財源保障と財源調整の両機能を堅持するとともに、臨時財政対策債によることなく地方交付税総額の安定的確保を図ること。また、国が主導する施策については、その財源手当てを特別交付税によることなく確実に措置すること。
  - (3) 地方交付税の算定における財政需要額並びに財政収入額については、都市の実態に即した算定方法の見直しを図ること。
3. 国庫補助金等の一括交付金化(地域自主戦略交付金化)については、地方の自由度を高めることはもとより、市町村の意見を十分に踏まえ、事業実施に支障が生じないように、現行補助金等の総額を確保するとともに、地方交付税制度との整合性にも留意し、国と地方の協議の場等で十分協議し、制度設計を行うこと。
4. 公立病院特例債において、利払い額の一部についてのみ交付税措置の対象とされているが、元金償還のための一般会計からの繰入金についても対象とするとともに、補償金免除繰上償還制度の拡充や、公債費負担における対象金利の引き下げなどの改善を図ること。
5. 市街化調整区域と市街化区域とでは、農地に対する固定資産税額に大きな差があることから、市街化区域農地の課税について軽減策を講じること。
6. より公平な社会保障制度の基盤確立のための「社会保障・税番号制度」(マイナンバー)導入にあたっては、システムやネットワークの改修等について、地方に新たな費用負担が生じないように、全額を国において確保するとともに、早期にその仕様を公表すること。
7. 年金所得者に係る確定申告不要制度については、住民税の各種控除の適用を受けるためには申告が必要となっていることから、納税者の利便性の向上と自治体の事務軽減のため、制度の改善を図ること。
8. 地方公共団体における附属機関の設置について、政令により設置が認められている国の規定に準じ、規則・規定等により特別事項を調査・審議する合議制の機関設置が可能となるよう地方自治法を改正すること。

## 2. 保健医療・社会保険制度の改革等の推進について

1. 医療保険制度の改革にあたっては、給付と負担の公平を確保し、安定的で持続可能な制度となるよう、国の責任において、すべての国民を対象とする制度への一本化を図ること。なお、制度の移行に当たっては、十分な準備期間を設け、それまでの間は、都道府県と市町村の適切な役割分担のもと、広域化を推進させるとともに、国民健康保険制度の財政基盤強化のため、国の責任と負担において、財政措置の拡充を図ること。
2. 国民健康保険制度の健全な運営を確保するため、次の措置を講じること。
  - (1) 制度改正にかかる政令改正等の早期周知と電算システムの改修に係る経費等について、十分な財政措置を講じること。
  - (2) 特定健診・保健指導について、実施率等による後期高齢者医療支援金の加算・減額措置を撤廃すること。
  - (3) 各種医療費助成制度等市町村単独事業の実施に伴う療養給付費負担金及び普通調整交付金の減額措置を廃止すること。
  - (4) 資格を喪失した被保険者の受診に伴う過誤調整について、被保険者を介さず保険者間において直接処理できるよう措置を講じること。
  - (5) 企業のリストラなどで職を失い国民健康保険に加入してきた「非自発的失業者」に対する保険料軽減措置、並びに、高額療養費等の自己負担限度額の軽減に伴う保険者への減収補てんについて、国が責任を持って財源措置を行うこと。
  - (6) 保険基盤安定（保険者支援）制度の充実を図るとともに、中低所得者層に対する負担軽減策を拡充すること。
3. 後期高齢者医療制度の円滑な運営のため、次の措置を講じること。
  - (1) 後期高齢者医療制度が廃止されるまでの間、保険料を抑制するため、国の責任において十分な財政措置を講じること。
  - (2) 後期高齢者医療制度に代わる新たな医療制度については、国の責任を明確にし、持続可能で分かりやすく安定した制度とするとともに、被保険者や市町村に新たな負担が生じることのないよう国において万全の対策を講じること。また、新制度の構築に伴うシステム構築・改修費等に対して十分な財政措置を講じるとともに、速やかな情報提供と十分な準備期間を設けること。
4. 介護保険制度については、国の責任において保険制度として長期的に安定した運営を行う必要があるため、将来にわたって市町村の財政負担が過重とならないような財政措置を講じるとともに介護保険制度の円滑な運営について必要な支援を図ること。また、次の項目について特段の措置を講じること。
  - (1) 介護給付費負担金（施設等給付費 20％・居宅給付費 25％）の別枠で調整交付金の財源を確保すること。

- (2) 介護保険料の急激な上昇を緩和するため、国費による財源措置を講じること。また、低所得者対策について、国の責任において、総合的かつ統一的な対策を講じること。
  - (3) 第1号保険料の設定方法について、より公平な保険料設定となるよう現行の世帯概念を用いている賦課方法の見直しを行うこと。
  - (4) 老人介護支援センターに対する補助制度を創設すること。
  - (5) 市町村認知症施設総合推進事業の継続を図ること。
  - (6) 訪問介護における生活援助の時間区分の見直しがなされたが、利用者に必要なサービスが確保できるよう、必要に応じ改善策を講じること。
  - (7) 介護現場においては、慢性的な職員不足が続いていることから、介護職員の待遇改善と併せて抜本的な人材不足対策を講じること。
  - (8) 介護基盤緊急整備等臨時特例基金について平成25年度以降も継続すること。
5. 市町村が行う予防接種に対する財政措置の拡充を図るとともに、BCG接種の対象月齢を1歳未満まで拡大すること。また、乳幼児へのヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、水痘ワクチン、流行性耳下腺炎ワクチン、インフルエンザワクチン、子宮頸がん予防ワクチン、B型肝炎ウイルスワクチンの接種を定期予防接種として位置付け、ワクチンの安全性の確保と安定供給を図ること。一方、重篤化が懸念される高齢者の肺炎について、その健康を守る観点から高齢者肺炎球菌ワクチンについても定期接種化を図ること。また、定期ポリオワクチン接種が不活化ポリオワクチンに切り替えられたが、市町村に新たな財政負担が生じることの無いよう、国の責任において十分な財政措置を行なうこと。
  6. 妊婦健康診査の公費負担拡充について、恒久的な制度化を図るとともに、一層の財政措置を講じること。また、「不育症」について、その検査、治療の保険適用や補助制度の創設等、必要な公的支援措置を講じること。
  7. がん対策の一層の充実を図るため、乳がん・子宮がんをはじめとするがん検診推進事業を継続するとともに、検診医・読影医や技師の人材確保・育成、医療機器の整備など検診体制の充実に対しても十分な財政措置を講じること。
  8. 国の責任において、乳幼児医療費の無料化制度を創設するとともに子どもの医療費負担軽減措置の充実と適用範囲の拡大を図ること。また、寡婦の医療費について、軽減策を講じること。
  9. 地方が単独で実施している各種医療費助成について、その重要性や必要性に鑑み、国において早期に制度化すること。また、制度化が図られるまでの間、十分な財政措置を講じること。
  10. 小児科、産科や内科、外科などの医師確保について、地域における医師偏在を解消し、地域の実情に応じた柔軟な医療提供体制が構築できるよう、拠点病院から地域へ医師を派遣する仕組みの構築など必要な対策を緊急に講じるとともに、十分な財政措置を講じること。また、看護師の確保についても、必要な支援策の充実を図ること。
  11. 無年金者や低額年金受給者対策として、最低保障年金等を含む年金制度の充実を図ること。

### 3. 社会福祉・公的扶助制度等について

1. 安心して子どもを産み育てることのできる環境整備を図るため、少子化対策事業、子育て支援事業、子どもの安全確保事業の一層の充実を図るとともに、次の項目について特段の措置を講じること。
  - (1) 児童手当などの今後の制度設計にあたっては、全国一律の現金給付施策の効果を改めて検証するとともに、現金給付とサービス給付にかかる国と地方の役割分担のあり方を含め、国と地方の協議の場において幅広く検討し、国が事務費・人件費等を含めた全額を負担するとともに、市町村の事務負担を極力軽減すること。また、保育料や給食費等を手当から徴収する仕組みについて、真に実効性のあるものとして自治体の裁量で取り組みが行えるよう構築すること。さらに、資格認定については、支給要件に該当した日の翌月から認定すること。
  - (2) 児童扶養手当について、所得制限限度額の緩和等を行うとともに、一部支給制限措置を見直すこと。また、児童扶養手当と障害基礎年金の併給を可能とし、子育て支援施策の充実を図ること。
  - (3) 父子家庭を母子及び寡婦福祉貸付金の対象に加えるなど、父子家庭も含めたひとり親家庭に対する福祉施策の充実を図ること。また、親に代わって児童を養育している少額年金受給世帯には、最低限児童扶養手当基本額までの差額を支給できる制度を構築すること。
  - (4) 地域における子育て支援の拠点としての機能が万全に発揮できるよう、保育所及び児童館、放課後児童クラブへの十分な財政措置を講じること。
  - (5) 多様化する生徒指導上の問題等にきめ細かく対応するため、また、LD、ADHD等の特別な教育的支援や医療的ケアを要する児童生徒を支援するため、教職員及び医療職員等の配置について、一層の措置を講じること。
2. 障害者の自立と社会参加を確実かつ安定的に支援するため、障害者保健福祉施策等について、次の措置を講じること。
  - (1) 障害福祉サービスに要する費用について、事業者による安定的な事業運営やサービス提供が可能となるよう報酬額の水準確保を図ること。特に障害者グループホーム・ケアホームについては、24時間支援体制が可能となるよう報酬額を改善すること。また設置促進に向け、障害者自立支援基盤整備事業を継続し、事業所の立ち上げや人材養成、相談支援の提供体制の整備などに必要な措置を講じること。
  - (2) 地域生活支援事業の実施などについて、市町村及び利用者の負担増にならないよう十分な財政措置を講じること。
  - (3) 送迎サービスや旅行先での様々な支援などが可能となるよう、障害福祉サービスの拡充を図ること。
  - (4) 身体障害者及び知的障害者に係る有料道路料金の割引制度について、割引対象車両の制限を撤廃するとともに、制度利用に係る手続きを簡素化するよう、有料道路事業者への指導を行

うこと。

- (5) 自立支援医療について、障害福祉サービス及び補装具に係る利用者負担の軽減措置と同様の軽減措置を講じること。
  - (6) 強度行動障害者への支援体制の整備を図るため、特別支援加算制度を創設すること。
  - (7) 障害者に対する虐待防止について、法の施行を円滑にするための継続的且つ安定的な財源措置を講じるなど、一層の支援を行うこと。
  - (8) 障害者自立支援法に代わる障害者総合支援法の施行にあたっては、現行の負担軽減策を継続させるとともに、分かりやすく安定した制度とすること。
  - (9) 制度改正にあたっては、事業の円滑な推進を図るため市町村と十分協議し、十分な準備期間を設けること。また、制度改正に伴い必要となる電算システムの改修等に対して十分な財政措置を講じること。
3. 生活保護制度の抜本改革について、次の通り特段の措置を講じること。
- (1) 「働くことができる人は働く社会」の実現に向けて、稼働可能層の就労支援を促進するとともに、社会保障制度全体のあり方を含めた抜本的な改革を行うこと。
  - (2) 生活保護は憲法が保障するナショナルミニマムとして国の責任において実施すべきものであることから、人件費を含む経費を全額国が負担すること。
  - (3) 増加する医療扶助等の抑制に向け、一部自己負担制度の導入を図ること。また、生活保護申請者及び受給者における扶養義務責任範囲の強化を図ること。
  - (4) 夏季加算の創設や、地理的条件の悪い地域の居住者が日常生活上の用に供する自動車の保有（使用）を認めるなど、地域や生活実態に即した改善を図ること。
  - (5) 生活保護法 29 条による預貯金調査及び扶養義務調査等の法的な見直しを図ること。
  - (6) 生活保護受給者と国民年金平均受給者との受給額格差の見直しを図ること。
4. 高齢者が社会の担い手として、知識・経験・能力を活かしていきいきと働き、社会活動に参加することを支えるよう、シルバー人材センター運営助成について、拡充を図ること。また、国の補助金額は府県の前算措置に影響されることなく、運営費補助単価限度額に基づき交付すること。さらに、高齢者や障害のある人で公共交通を利用して医療機関等へ行くことが困難な人の「外出支援制度」の重要性が一層高まっているため、外出支援事業に対する財政措置を拡充すること。

## 4. 都市基盤の整備促進等について

1. 地域の活性化をはかり、国土の均衡ある発展を目指すとともに、近畿圏における次のプロジェクトの推進に必要な措置を講じること。
  - (1) 高速道路をはじめとする広域幹線道路等の整備にあたっては、地域の実情等を十分に勘案するとともに、必要な財政措置を講じ、早期に完成させること。
  - (2) 関西文化学術研究都市プロジェクトの推進。
  - (3) 港湾・海岸の基盤整備促進。
  - (4) 公共交通の活性化や利便性の向上を図る立体交差事業の推進に必要な支援措置。
  - (5) 地域特有の自然・歴史・文化と河川の特徴が調和した交流拠点の創出など、水辺環境の整備促進。
2. 地方における道路整備が着実に推進できるよう道路整備財源を安定的に確保すること。また、地域の活性化と発展、さらには移動制約者等の移動交通手段確保を図るため、重要な社会基盤であるコミュニティバスや地域鉄道（第三セクター鉄道）などの地域公共交通を安定的に維持させるため、必要な経営支援を行うこと。
3. 下水道の普及拡大、整備促進やさらなる機能向上及び公共用水域の水質保全を図るため、次の項目について特段の措置を講じること。
  - (1) 管渠等の整備をはじめ、浸水対策や老朽化する下水道施設の耐震化及び改築・更新について、必要な財政措置を講じること。また、合流式下水道改善事業の猶予期間については事業の進捗状況を踏まえ、柔軟に対応すること。
  - (2) 流域下水道事業に関連する市町村が合併により単一市町村となった後も、引き続き都道府県が施設管理を行えるよう制度改正を図ること。
  - (3) 水洗化普及率の早期向上や効率的な整備促進のため、浄化槽整備事業に対する財政措置を拡充すること。また、同一敷地内での親子世帯別住宅における合併浄化槽等による水洗化を実現するため建築基準法(施行令)の基準緩和を図ること。
4. 公共下水道の敷設や私道の公道化について、事業の妨げとなる事例について、法整備あるいは特別措置等により事業推進可能となるよう、方策を検討すること。
5. 安全で安定した水道水の供給を図るため、老朽化した水道施設の更新、施設の耐震化や安全強化及び簡易水道事業の上水道への統合について、十分な財政措置及び補助対象事業の条件緩和を図るとともに、水道事業の経営健全化のため、起債の融資条件及び借り換え制度の条件緩和を図ること。
6. 特定多目的ダムの建設に要する費用の負担について、基本計画の変更により事業費が増額され自治体財政に大きな負担と不安を招いている現状に鑑み、利水者負担限度額の設定や利水者負担額の軽減を図ること。また、建設後に負担が発生する国有資産等所在市町村交付金についても軽減を図りたい。

7. 定住自立圏構想推進要綱の要件を満たさない広域行政圏事業に係る支援策を講じること。
8. 社会資本整備総合交付金については、真に必要な都市基盤整備を効率的かつ適切に実施できるよう十分な財政措置を講じること。
9. 魅力ある都市づくり実現のため、戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金の存続、充実に努めるなど、中心市街地の活性化に関する施策について一層の拡充を行なうこと。

## 5. 防災・災害対策の充実と市民の安全確保について

1. 東日本大震災では、これまでの想定をはるかに超える巨大な地震・津波が発生し、国及び地方自治体における対策の見直しが求められているなか、内閣府より8月29日に発表された南海トラフ巨大地震の被害想定の見直しを受け、東南海・南海地震などの大規模地震や各種災害に対応する諸施策を推進するため、一層の財政措置を講じるとともに、次の事項について特段の措置を講じること。
  - (1) 日本海側及び太平洋側における地震及び津波に関する調査研究を積極的に進め、実効性のある地震及び津波の予測と被害想定を示し、地域防災計画の見直し、ハザードマップの整備等、防災対策の推進について支援を講じること。
  - (2) 避難施設・防災拠点施設の整備や耐震化、避難路確保のための耐震診断・改修工事、防災行政無線及び消防・救急無線のデジタル化等の防災対策整備について、地域の実情に即した十分な財政措置を講じること。
  - (3) 公立学校施設の耐震化を着実かつ早急に推進するため、耐震化を目的とする改築事業等について、実態に即した補助単価に見直すとともに補助率の嵩上げ措置、対象施設の基準緩和を図ること。また、非構造部材の耐震化を推進するため、防災機能強化事業の補助率嵩上げや交付算定対象下限額の引き下げを行なうこと。また、公立保育所の耐震化工事や、その他公共施設の耐震化関連事業についても同様に予算を確保すること。一方で、耐震化以外の学校施設等の整備や改修についても、公教育を支える立場から必要な財政支援を行うこと。
  - (4) 老朽化した井堰の早期改築のために必要な措置を講じるとともに防潮(波)堤並びに防潮水門の早急な整備など、津波対策の強化を図ること。
  - (5) ため池の決壊対策事業や地すべり対策事業、急傾斜地崩壊対策事業の着実な整備促進を図るため、財政措置の拡充を図ること。また、地域自主戦略交付金事業のため池改修事業について、採択要件を緩和すること。
  - (6) 東南海・南海地震防災対策推進地域など著しい地震災害が生ずる恐れのある地域について、地震防災対策強化地域の指定を行うこと。
  - (7) 大規模な浸水被害や水難事故をもたらす局地的豪雨に対する総合的な対策について十分な財政措置を講じること。なお、土砂災害特別警戒区域に指定された区域内の居宅を建て替える際に、特別警戒区域外にある農地を転用する場合には、農地法の転用許可の緩和を図ること。
  - (8) 緊急防災・減災事業債の予算の増額と永続的な措置を講じること。
  - (9) 阪神・淡路大震災に係る災害援護資金貸付金について、現在でも借受人が無資力な状態あるいは所在不明など、最大限の回収努力を講じてもなお、償還不可能なケースが数多くみられるため、東日本大震災の被災者への特例措置同様に償還免除要件の拡大など、借受人等の現在の実情に応じた措置を講じること。
2. 東北地方太平洋沖地震による原子力発電所の事故発生を踏まえ、周辺住民の安全・安心確保が



不可欠であるため、次の事項について特段の措置を講じること。

- (1) 原子力発電所事故に対する政府の事故調査委員会の調査結果などの知見をもとに、原子力発電施設の安全に対する統一基準の見直しを行うとともに、原子力規制委員会を早期に機能させ、中立的な第三者機関のもとでの安全確認が行われる仕組みを構築すること。
  - (2) 「予防的措置範囲」(PAZ)、「緊急防護措置計画範囲」(UPZ)における避難判断、モニタリング体制、通報体制等の詳細な基準を明確にし、原子力防災対策に最大限の支援措置を講じるとともに、原子力事業者との安全協定の締結を義務付けるなど原子力災害対策特別措置法等の改正を行うこと。また、原子力発電所に隣接する市町村においても、今後の放射能対策、防災対策には多大な経費が予定されることから、適切な財源対策を講じること。
  - (3) 大規模自然災害時における通報システムを再構築し、迅速かつ適切な情報開示を徹底すること。また、原子力発電事故等大量の放射性物質が放出されるなどの恐れがある場合にあっては、緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム(SPEEDI)による解析の結果を適切に公開するとともに、避難区域の設定や住民避難については関係自治体の意向も踏まえながら、国が主導的な役割を果たすこと。
  - (4) 原子力発電施設以外にも放射性物質を扱う事業所及び運搬時における安全対策の徹底を図ること。
  - (5) 瓦礫や土地の放射能汚染に関し、除染処理や研究を進め、特に湖や河川など水源に被害が及んだ場合を想定した効果的な対策を早急に検討し、実施すること。
3. 原子力発電施設事故に端を発した深刻な電力不足は、市民生活や経済活動に甚大な影響を与えることから、次の事項について特段の措置を講じること。
- (1) 現下の厳しい電力状況を踏まえ、電力の安定供給確保に向け、国は責任を持って対処すること。
  - (2) 自然エネルギーへの関心が高まる中、太陽光発電の充実を図るなど、地域特性・資源を活用した一般家庭対象の全ての再生可能エネルギーについて、その設備導入に係る補助制度の創設を図ること。
  - (3) バイオマス利活用の推進・普及を図るため、財政措置を拡充すること。
4. 災害に強い森林づくりへの補助金制度を創設すること。

## 6. 生活環境の整備促進、地域経済の振興などについて

1. 環境保全や自然保護の観点から、琵琶湖の総合的な保全のための行動計画を着実に推進するため、財政措置を拡充するとともに、森林整備の担い手確保・育成のため「緑の雇用担い手対策事業」の一層の推進を図ること。
2. 地球温暖化対策を着実に推進するため、次の措置を講じること。
  - (1) 温室効果ガス排出量削減目標達成に向けた道筋及び役割の具体案を早急に示すこと。
  - (2) 森林の公益的機能の持続的な発揮のための森林・林業・山村対策の抜本的な強化に向け、二酸化炭素排出源等を課税対象とする環境関連税を創設し、市町村に対する新たな税財源とすること。
  - (3) バイオディーゼル燃料利用車へのメーカー保証措置や燃料供給施設普及のための財政的支援並びに関係法令の規制緩和を行い、自動車の低公害化を図ること。
  - (4) 新エネルギー・省エネルギー機器の技術開発の促進及び機器導入を促すため、太陽光発電設置、エコポイント制度、市町村が行う省エネ改修について十分な財政措置を講じること。
  - (5) エネルギー事業者が市町村に必要なデータを提供するよう指導を行なうこと。
3. 公衆防犯灯のLED化推進に対する支援制度を創設するとともに、LED照明器具の製品規格標準化に向けた取り組みの推進を図ること。
4. 過疎化や高齢化が進行している「水源の里」（いわゆる限界集落）の活性化を図るため、地域の実情に即した総合的かつ積極的な対策や必要な財政措置を講じること。
5. 地方における観光政策を推進するための環境整備等に対して総合的な支援を充実すること。
6. 企業誘致事業に対する固定資産税の減免による減収補填措置のみならず、企業用地へのアクセス整備や誘致企業への助成等の財政負担に対する支援措置の充実強化を図ること。
7. 中小企業経営の安定化と成長を図り、地域経済の維持・発展を促進するため、適用基準の緩和を含めた金融対策の維持・拡充を図るとともに企業自身の能力や地域資源を活用し、独自の事業発展、強化を目的とした人的・財政的支援を含む包括的な支援制度を創設すること。また、将来にわたりものづくり産業を維持・発展させるため、電力不安や円高に強固な対策を講じるとともに、自治体の企業誘致・事業誘致への支援措置の拡充を図ること。また、消費税増税が予定される中、景気対策となるインフラ整備を優先して取り組み、増税後に不況が生じることのないよう対策を実施すること。
8. 有害鳥獣による農作物被害について、十分な財政措置を図ること。また、有害鳥獣捕獲の担い手確保のため、銃刀法の規制緩和と射撃場の確保を図ること。
9. 環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）交渉参加については、様々な産業分野や地域経済へ多大な影響を及ぼすことが懸念されることから、国民に対し、詳細な情報を開示し、十分な議論を尽くし、国民的合意を得た上で慎重に対応すること。中でも、農林漁業の振興と再生に向けた取り組みが損なわれないよう十分配慮すること。
10. 農業者戸別所得補償等の農業・農村振興にかかる制度の整理統合を図ること。

11. 住民票や戸籍謄本等の不正請求を防止するため、さらなる罰則強化等を行うとともに、請求時に被請求者の承諾書等の添付を義務付けるなどの措置を講じること。
12. 住民基本台帳カードの普及とネットワークシステムの維持管理にかかる財政措置の拡充を図ること。
13. 地域間の情報格差を是正するために整備した情報通信基盤設備の維持管理について、必要な財政措置を講じること。
14. 山砂利採取跡地の修復整備を促進するため、国が行う事業により発生する良質な建設発生土を確保すること。一方で、不適切な残土投棄について、業者のモラル向上と適正な残土処分が実現できるよう、法整備を図ること。
15. 廃棄物処理施設について、計画的な施設整備を行うため循環型社会形成推進交付金の予算確保及び対象の拡大を図るとともに、施設の修繕や廃焼却炉解体等に対しても十分な財政措置を講じること。
16. 「容器包装廃棄物」の減量と環境負荷の低減を進めるため、拡大生産者責任を明確にし、発生抑制、再利用を優先させる仕組みを構築すること。また、海岸漂着物についてはグリーンニューディール基金事業の対象外になることを踏まえ、地方自治体への新たな財政支援を講じること。
17. 安全で快適な地域社会の実現と産業振興のために一般廃棄物及び下水汚泥の最終処分場の確保について、積極的な支援策を講じること。また、産業廃棄物処理施設の設置許可については、地域住民とのトラブルを避けるため、手続きの過程において、住民参加のシステムを構築すること。
18. 保護司活動が円滑に行われるよう、面接のための事務所等の整備・確保を図ること。
19. 公契約において、適正な労働条件が確保されるよう、国において早急に公契約法に関する基本の方針等を策定すること。
20. 地方公共団体における公の施設の管理運営について、現在の指定管理者を指定するものに加え、公共的団体に直接管理運営の委託が可能となるよう、制度の改正を図ること。
21. 悪質商法被害や食品表示の対策など、国民生活への影響が大きい消費者行政について、地方自治体が取り組みを着実に推進し、市民が安心して消費生活相談ができるよう、恒久的な財政支援を講じること。